

令和5年度 事後評価  
課題評価委員会における主な指摘事項

研究開発課題名： フラビウイルスに対する新規薬剤を創出するための国際連携基盤  
の構築

研究開発代表者名： 酒井 隆一（北海道大学）

本課題は、日本、タイ、米国の3か国が協力し、東南アジア地域に蔓延しているデング熱に対する新規薬剤の創出に向けて、海洋天然物などから複数の新規阻害化合物をスクリーニングし、構造活性相関の解析などを通じて、作用機序を明らかにしており、十分な成果が得られた。当初計画した目的を概ね達成し、得られた化合物が広範囲の抗ウイルス薬として利用できる可能性があることから、今後の創薬開発に向けた進展が期待できる。さらに、若手研究者育成のための講演会の開催やチーム間での積極的な研究者交流を行っており、タイ側の研究力向上に貢献したことは評価に値する。

しかしながら、同定した化合物は、大量合成には至らず、*in vivo*での阻害効果の評価実施の道筋はついていない点が残念であった。細胞毒性が高いなど、創薬に向けての今後の課題も多い。将来的な臨床応用までを見据えて研究が継続されることを期待する。必要な知的財産の確保は今後の課題である。加えて、重要な研究成果の大半は日本側で得られたものと見受けられ、3か国間の共同研究とした時に、タイ側、米国側チームとの有機的な連携がやや不十分に見受けられたことは残念である。